

4 特別支援教育の視点からみたキャリア教育

特別支援学校や小中学校等の特別支援学級、通常の学級に在籍する支援を必要とする子どもたちに対して、特別支援教育の視点からみたキャリア教育の視点を示しました。

「自立と社会参加」という大きなゴールに向けて、一人一人の障がいの実態に応じた支援を行う必要があります。また、共生社会の実現に向けて、障がいの有無に関わらず共に学ぶとともに、社会の中で自分らしく生きていくために、小学校から中学校、高等学校等へと学びをつなげながら、次ページの5点にポイントをおいてキャリア教育を進めていく必要があります。



ポイント1 インクルーシブ教育の推進

- 障がいの有無に関わらず誰もがその能力を発揮し、共生社会の一員として共に認め合い、支え合い、誇りをもって生きられる社会の構築
 - ・交流及び共同学習等を通して、正しい障がい観を形成すること
 - ・年齢や発達の段階に合わせて、共生社会の一員としての役割を自覚し、それぞれの状況に応じた行動ができるようになること
 - ・個性を尊重し、多様な生き方を認め合う教育活動を充実すること

ポイント2 合理的配慮の充実

- 一人一人の子どもの障がいの状態や教育的ニーズ等に応じた教育の推進
 - ・障がいのある子どもの困難さに応じた教育を推進すること
 - ・障がいのある子どもが自分の困難さを自覚し表現できるようにすること
 - ・障がいのない子どもは障がいのある子どもの困難さを理解し、助けるための意識や行動を形成すること

ポイント3 家庭・地域や専門機関との連携

- 学校が中心となって、家庭・地域や専門機関と連携して障がいのある子どもへの知識・理解等を高める教育の推進
 - ・障がいのある子どもをはじめ、高齢者や異年齢等世代を超えた交流の機会を設けること
 - ・専門機関等と連携して、障がいのある子どもの教育を推進すること

ポイント4 個別の指導計画・個別の教育支援計画の活用

- 障がいのある子どもの教育的ニーズの正確な把握や長期的な視点で学校卒業後までを通じて、一貫した的確な支援の推進
 - ・個別の指導計画や個別の教育支援計画をキャリア教育の視点から活用すること
 - ・子どもの障がいの状態や特性等を踏まえた計画を作成し適切な指導・支援を行うこと

ポイント5 職業教育・社会体験

- 一定又は特定の職業に従事するために必要な知識や技能、能力、態度を育てる教育の推進
 - ・学校間、居住地校の交流活動などを実施すること
 - ・地域や産業等への関心につながる作業学習を実施すること（特別支援学校）
 - ・社会見学などを含めた生活単元学習を実施すること（特別支援学校）
 - ・職業体験（ジョブシャドウイング）等を実施すること

※ 下線部の部分はキャリア教育と特に関連があります。